



平賀大雄 Hiroo Hiraga

広島大学教育学研究科学生支援グループ
(2003年3月 法学部卒業)

— 広大生から広大職員へ。なぜ広島大学に就職しようと思ったのですか？

こんなことを言ったら怒られそうですが、特別に熱い思いがあって職員になったわけではないんです。就活で広大の方と話すうちに、自然と選択肢のトップに上がっていたという感じです。何か感じるものがあったんでしょうね。就職して社会人になるというのは、大きなステップだと思いますが、見知らぬところでゼロからスタートするよりは、よく知った環境で働けるという安心感がありましたね。

— 現在の仕事内容は？ やりがいを感じることは？

メインは窓口に来る学生さんの対応です。不安な顔をした学生さんが窓口に来られることもあります。そんなとき、こちらの受け答えで学生さんの顔からみるみる不安が消え、笑顔で出て行かれるのを見ると、ホッとしてうれしいですしやりがいを感じますね。学生時代には気付かなかったのですが、働き始めて驚いたのは、大学には病院や附属学校もあり、仕事の内容も人事や財務などさまざまだったということ。その中でも、学生系の仕事って花形じゃないかと思えます。大学らしい仕事というか、自分が希望していた部署なので本当に楽しいです。



— 保守的だった考え方が学生時代よりずっとポジティブに



— 学生時代にやっていたよかったことは？

4年間アルバイトで塾講師をしたことですね。思ったことをそのまましゃべっても誰もついてこないし、理解してもらえない。ただ、教えることはたくさんあるので、伝えたいポイントを頭の中で整理して話さないといけななんです。事務の仕事も同じ。学生さんに教えたり、周りの人に仕事を手伝ってもらうときに説明をすることが多いんですが、要点を一つ一つまとめて話さないと分かってもらえないんです。それを意識するようになって、仕事がスムーズにいくようになりました。

— 後輩へのメッセージをお願いします。

やってみようと思ったことには、とにかく一歩踏み出してみる！ 僕は引っ込み思案で、行動する前からビビってしまうタイプ。でも「とりあえずやってみよう」と考えるようにしています。ちなみに今は、ペン字講座に挑戦予定。教育学部って字がきれいな学生さんが多いんですよ。うらやましいなと思って。将来役に立つかどうかは分からなくても、やってみないと始まらない。たとえ役に立たなくても自分に幅が出るんじゃないかな。

学生支援室



羅針盤

OB&OG紹介

社会の第一線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。仕事のことから学生時代に身に付けておくべきことはまたプライベートの話まで、私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

— 現在の仕事内容と、動物園に就職したきっかけは？

飼育員になって3年目。今はアフリカに生息するサルの担当をしています。仕事はエサの準備とセット、小屋の掃除、ケアが必要なサルのチェックなどですね。動物が小さいころからずっと好きだったので、動物園の飼育員を目指すように。大学時代はアルバイトにもこだわり「動物関係じゃないと絶対せん」と思って、ペットショップで働きました。でも、なかなか飼育員の採用がなくて…。悩んでいた3年生の春休みに、とべ動物園で実習をする機会があったんです。その際、採用予定があることを知り、運良く就職できました。

— 飼育員の仕事は体力的にきついイメージがありますが、

ぜんぜんオッケーです！ 最初のころは、仕事が終わると家に帰って寝て起きて、またすぐ仕事に行って…という感じできつかったけれど、慣れると体も楽になり、学生時代のグータラ生活がすっかり規則正しくなりました。仕事は楽ではないけれど、大丈夫！ 休みのときはゆっくりしたいと思うんだけど、どこかへ遊びに行くくらいなら、ほかの動物園を見に行きたいですね。勉強になることも多いので、休日は私にとってとても貴重な時間。死ぬまでに日本全国すべての動物園を見て回りたいです。

— サルたちはかわいい？ 飼育での悩みはありますか？



人間に近く賢い動物だから、飼育は難しいんだけど、それだけに魅力がある。いいですよ、サル。生まれたりうれしいし、死んだら責任を感じるし、サルに対する「愛」がありますね。

この前お客さんに「わたしはサルが大嫌いじゃ！ おちくられとる気がする」って言われてすごくショックでした。動物たちは純粋で、人間よりも心がきれいだと思うのに。

動物園はお客さんが来てくれないと成り立ちません。でも、お客さんに100%満足してもらおうとすると、動物には必ず害が出るんです。そのバランスが難しい。野生の中で生きるのが一番幸せな動物たちが、ちっちゃな檻に入れられて毎日同じことの繰り返しで…。自分が動物だったらとても大きなストレスだと思います。それを少しでも減らすような環境にしていきたいですね。



— 将来の目標を聞かせてください！

今は納得いくまでサルを担当し、将来的にはいろいろな動物を担当してみたいです。爬虫類は嫌いな。担当になったら変わるかもしれませんが(笑)。私の中で動物園の飼育員になることは「かなわないかもしれないデッカイ夢」でした。みなさんもなりたいたいものがあるなら、妥協せずに夢を追いかけてください。たとえすぐには実現できなくても、情熱があれば、いつか絶対かなうと思います。



大下こず恵 Kozue Oshita

愛媛県立とべ動物園 技師
(2004年3月 生物生産学部卒業)

— 動物が大好きで選んだこの道。情熱さえあれば、夢はかないます！

取材を終えて



「学生時代を過ごした場所と、職場が同じってどんな心境なんだろう？」インタビュー前から興味津々でした。地元も広島で広島大学出身の平賀さん。「広大で働くことには安心感がある」という言葉が印象に残りました。窓口では、学生一人ひとりに丁寧な対応をするよう心がけているとのこと。おかげで私たちがよりよいキャンパスライフを送れるのだとあらためて感じました。

取材・記事 / 教育学部4年 宮永 静



はにかみながらも、熱心にサルの魅力や自分の思いを話してくれた大下さん。「とにかく動物が好き、仕事楽しい」そんな気持ちが目の輝きや話しぶりなど全身を通して伝わってくる温かい先輩でした。仕事そのものは決して楽ではなくても、好きな道なら情熱を絶やすことなく続けることができる。多くの教訓を学んだ気がします。

取材・記事 / 2007年3月 総合科学部卒 丸一 真実